

科目名	臨床心理学特講	担当者	キクシマ 菊島 カツヤ 勝也	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	臨床心理学実践の中で、教育臨床をとりあげ、子どもに対する臨床心理学的な支援について学習する。特に、発達障害をはじめとした、様々な問題を抱えている子どもに対して、学校場面でどのような支援が行われているかについて焦点をあて、理解を深めることを目的とする。		
到達目標	発達障害を持つ子どもに、実際の生活場面でどのような困難やつまずきが生じるのか、具体的なイメージを持てるようになること。さらに、そのような困難を抱える子どもに対して、どのような支援ができるのか理解を深めることを到達目標とする。		
学修方法	教材を読み、下記のレポート課題についてレポートを作成する。		
スケジュール	基本教材1のレポート課題(1)(2)を終了後、同じく基本教材2のレポート課題(1)(2)を作成する。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	課題及び教員からの指導に対して、適切な内容がまとめられていること。また、それに対する、独自の意見や疑問が記述されていること。
	平常評価	%	
履修者への要望	発達障害を持つ子どもにこれまで関わる機会の無かった方は、なるべく具体的なイメージを持っていただきたい。一般向けの本などもたくさん出ているので、それらをあたることも助けとなると思われる。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 阿部利彦 教材名： 『見方を変えればうまくいく！特別支援リフレーミング』 （中央法規，2013年）ISBN:978-4-8058-3859-4 2,000円+税
	著者は発達障害を持つ児童生徒に対して、主に学校場面で非常に先駆的な支援を行ってきた専門家である。本書は、3章から構成されており、特別支援の基本的な考え方、さらにたくさんの事例と対応方法が紹介され、専門家だけでなく、教員や保護者にも理解が深まるような配慮がなされており、初学者にとってわかりやすく大変有益な内容であるといえる。
参考図書	佐藤暁『自閉症児の困り感に寄り添う支援』（学研，2007年）ISBN:978-4-05-403366-5 1,700円+税 川上康則『〈発達のつまずき〉から読み解く支援アプローチ』（学苑社，2010年）ISBN:978-4761407315 1,500円+税 文部科学省（2012）『通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について』（文部科学省HPで閲覧可能）
履修上のポイント	発達障害を持つ子どもに対する支援については、以下の点を十分踏まえておく必要がある。（1）授業場面では教育的な配慮が必要であり、本人のハンディキャップに応じた授業の工夫がなされるべきであること。（2）家庭場面では親のストレスや負担をなるべく減らし、まず良好な親子関係をつくることを支えていく事が求められること。（3）その上で、子ども自身のこころの健康な成長を支えるような支援が必要であること。（4）これらの支援はバラバラに行われるのではなく、それぞれが連携をしながら、実施されるべきであること。以上の点について、教材を読む事で、より具体的に理解が深まることが望まれる。
レポート課題 1	教材第1章を読み、自分で重要であると感じたり、興味を持った部分を中心に要約を行い、それに対する自分の意見や疑問を書きなさい。 留意点 ：まず発達障がいがあるかのようなもので、どのような種類があるかについて、教材とは別に調べ、把握しておくことが望ましい。
レポート課題 2	教材第2章 CASE 1～5までを読み、自分が興味を持ったケースを2例とりあげ、教材で解説されている支援策を参考に、それぞれのケースごとに、独自の意見も含めた「支援プラン」を提案しなさい。 留意点 ：提案する1つ1つの支援プランについて、（1）どのような方法か、（2）その方法を実施することでどんな効果が期待できるか、を必ず含めること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 教材名： 基本教材1と同じ。
	基本教材1と同じ。
参考図書	佐藤暁『見て分かる困り感に寄り添う支援の実際』（学研，2006年）ISBN:978-4-05-403152-4 1,700円+税 阿部利彦（編著）『クラスで気になる子の支援 ズバツと解決ファイル』（金子書房，2009年）ISBN:978-4-7608-2347-5 1,700円+税 文部科学省（2007）『「特別支援教育支援員」を活用するために』（文部科学省のHPで閲覧可能）
履修上のポイント	学校場面での子どもへの支援においては、いわゆるカウンセリングなどの心理療法的な視点からの支援だけでなく、教授法、教材の工夫、療育、生活指導、ケースワーク等、様々な視点から「役に立つ」方法を組み合わせて柔軟に用いることが必要であることを、具体的に学習することが望まれる。
レポート課題 1	教材第2章 CASE 6～10までを読み、自分が興味を持ったケースを2例とりあげ、教材で解説されている支援策を参考に、それぞれのケースごとに、独自の意見も含めた「支援プラン」を提案しなさい。 留意点 ：正解があるわけではないので、自由に独自の支援プランを考えて提案すること。
レポート課題 2	教材第2、3章 CASE11～16までを読み、自分が興味を持ったケースを2例とりあげ、教材で解説されている支援策を参考に、それぞれのケースごとに、独自の意見も含めた「支援プラン」を提案しなさい。 留意点 ：正解があるわけではないので、自由に独自の支援プランを考えて提案すること。